

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	681012	事務事業名	徳山駅周辺整備事業			
担当部・課名	中心市街地整備部・中心市街地整備課	評価者(課長)	野村 正純	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	700501	分野	7産業・観光	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	5中心市街地の賑わいの創出			補助・単独の別	補助
	推進施策	(1)徳山駅周辺整備事業の推進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	徳山駅周辺	事業の目的(意図)	快適で利便性の高い駅周辺にするとともに、都市の拠点づくりを行い中心市街地活性化につながる。
事業の内容(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した、すべての人に快適で利便性の高い駅周辺の整備</li> <li>●徳山駅前賑わい交流施設の整備(H27～29)</li> <li>●南口駅前広場の整備(H28～32)</li> <li>●北口駅前広場の整備(H29～31)</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
～H26南北の交流人口 H27～街なか歩行者等通行量	～H26南北の交流人口 H27～街なか歩行者等通行量	～H26南北通路の通行量 H27～主要14地点の歩行者等通行量(H31目標28,800人/日)	%	目標値	28,000.0	28,000.0	28,000.0
				実績値	27,056.0	24,318.0	
				達成度(%)	96.6%	86.9%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	1,786,888	1,391,706	2,425,795	493,240
	うち一財	千円	196,921	183,148	362,268	58,029	23,760
(決算額)	直接事業費	千円	898,625	1,031,482		対29年度増減理由	対30年度増減理由
	うち一財	千円	98,292	152,598		事業の進捗や工事内容によるもの	事業の進捗や工事内容によるもの
	正職員人件費	千円	31,842	37,368			
	人工数	人	4.30	5.10	5.10		
	支出コスト	千円	決) 930,467	決) 1,068,850			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H21:都市計画決定告示 H22:JRと基本協定、工事協定を締結 H23～H26:南北自由通路及び橋上駅舎化工事 H25～H27:区画道路整備、駐輪場整備、新駅ビル基本設計・実施設計・解体工事・建築工事着手	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 賑わい交流施設の開館に合わせ北口広場の整備にも着手することとなるため、十分な現場管理、安全対策に留意し、駅周辺利用者へ配慮しつつ着実に実施する。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	本事業は、駅周辺の重要な基盤整備で、南北自由通路をはじめとし、着実に整備が進んでおり、賑わいの核施設となる賑わい交流施設の開館をむかえる年度となった。その期待から、商店街においても中心市街地の再生に向けた取組みが盛んとなるなど、事業の早期完成を目指し推進していく必要がある。	評価責任者コメント	徳山駅周辺整備事業は周南市の玄関口となる非常に重要なプロジェクトである。中心市街地の賑わい創出のため、賑わい交流施設と南北駅前広場の一体的整備を早期に実現し、事業効果を発揮する必要がある。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
国の補助金を有効に活用できる組立と、工程管理による工期の徹底に努め、効率的な推進を図る。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	南口駅前広場の整備	南口駅前広場の再整備を行い、ゆとりのある空間の整備と交通の円滑化を図る	工事発注・監理、補助金対応、JR・関係機関との調整	37,426 可	1.10	0.00	
②	北口駅前広場・賑わい交流施設の整備	北口駅前広場と賑わい交流施設を整備し、交通結節点の利便性向上と駅前に新たな賑わいの拠点をつくる	北口駅前広場:実施設計、補助金対応、JR・関係機関との調整 賑わい交流施設:建設、指定管理者選定、開館準備	994,056 可	4.00	0.00	
③							
④							
⑤							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	681013	事務事業名	中心市街地活性化事業			
担当部・課名	中心市街地整備部・中心市街地整備課	評価者(課長)	野村 正純	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	700503	分野	7産業・観光	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	5中心市街地の賑わいの創出			補助・単独の別	補助
	推進施策	(3)魅力ある中心市街地の再生・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	中心市街地の利用者	事業の目的(意図)	中心市街地活性化基本計画掲載事業について、官民連携のもと着実に実施していくとともに、民間による事業の掘り起こしを行い、その支援をしていく。 基本計画目標 ○新規出店数 H25～29累計目標 149店舗 ○主要14地点の歩行者等通行量 H29目標 28,000人/日
事業の内容(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●賑わい交流施設から中心市街地に賑わいの創出を図る</li> <li>●中心市街地活性化基本計画掲載事業の進捗管理及び計画最終年としてその検証を行う</li> <li>●基本計画掲載事業を推進するため、中心市街地活性化協議会や(株)まちあい徳山とともに民間事業を支援</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
	中心市街地14箇所における歩行者等通行量	中心市街地14箇所における歩行者等通行量(H31目標 28,800人/日)	人	目標値	28,000.0	28,000.0	28,000.0
			実績値	27,056.0	24,318.0		
			達成度(%)	96.6%	86.9%		

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	直接事業費	千円	135,382	10,137	24,398	63,700	108,711
(予算額)	うち一財	千円	19,771	6,415	20,484	54,919	65,437
直接事業費	千円	15,950	56,850		対29年度増減理由	対30年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	7,315	12,102		新駅ビル指定管理料、歩行者優先道路化にかかる実施設計費用	新駅ビル指定管理料、歩行者優先道路化にかかる工事請負費
正職員人件費	千円	17,032	16,119				
	人工数	人	2.30	2.20	2.20		
支出コスト	千円	決) 32,982	決) 72,969				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	中心市街地の活性化は重点課題であり、平成25年度からは「周南市中心市街地活性化基本計画」に基づき進めている。平成27年度は旧駅ビル解体、小規模複合商業施設の開業、銀南街リニューアルとハード整備が目に見えて進んだこともあり、歩行者通行量が2年連続で増加する等効果が出始めている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 歩行者優先道路化の実現については、周辺状況の変化、関係機関の理解・協力、地元合意等課題が多く、今後の事業の進め方を検討していく必要がある。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	基本計画の目標達成に向けて、事業を進めていく。また中心市街地の活性化には、公だけではなく、民間事業の推進も不可欠であり、今後も各関係者との連絡協議、地元調整等を密に行い、事業の熟度に合わせた支援を行うなど官民連携での活性化を図っていく。	評価責任者コメント	中心市街地活性化基本計画の最終年度として、数値目標達成のため、賑わい創出に資する取組みを官民連携で行っていく。また2期計画策定の有無を検討するうえで、第1期計画の成果について十分な検証が必要である。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
官民一体となって取り組んできた中心市街地活性化基本計画の事後評価及び次期計画の検討を行い、ハード整備とタイアップした中心市街地の環境の向上に取り組む。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	中心市街地の賑わい創出	賑わい交流施設への来館者を中心市街地にも回遊させ、賑わいの創出を図る	実験的なイベント等の開催、中心市街地で活動する人材や団体の発掘・育成	52,468 可	0.60	0.00	
②	中心市街地活性化基本計画の進捗管理及び検証	中心市街地活性化基本計画掲載事業の進捗管理及び数値目標について継続管理するとともに、計画最終年としてその検証を行う	通行量等調査、中心市街地活性化協議会との調整、第1期計画の検証	2,808 可	0.60	0.00	
③	民間事業の支援	中心市街地活性化に資する民間事業を支援し、まちの活性化を図る	タウンマネジメント人材やアメニティ整備に対する補助、地元再開発等への対応、各種事例調査、他団体や事業者の情報収集	1,574 可	1.00	0.00	
④							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	681015	事務事業名	中心市街地施設整備一般事務費			
担当部・課名	中心市街地整備部・中心市街地整備課	評価者(課長)	野村 正純	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	900204	分野	9行政経営	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2将来を見据えた行政経営			補助・単独の別	単独
	推進施策	(4)その他			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	徳山駅周辺	事業の目的(意図)	徳山駅周辺整備を推進し、中心市街地の活性化に資する。徳山駅南北自由通路等の管理により、駅周辺利用者の利便性向上が図られる。
事業の内容(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●徳山駅周辺整備を推進する環境の整備</li> <li>●徳山駅南北自由通路の維持管理</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
利用者数	駅南口利用者		人/日	27年度	7,000.0	7,000.0	7,000.0
				28年度	5,601.0	6,843.0	
				29年度	80.0%	97.8%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	直接事業費	千円	24,568	25,269	24,192	22,910	22,910
(予算額)	うち一財	千円	19,492	20,283	19,388	16,122	16,122
直接事業費	千円	20,952	23,519		対29年度増減理由	対30年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	16,151	18,271		家屋借上料の減額によるもの等	
正職員人件費	千円	5,924	5,862				
人工数	人	0.80	0.80	0.80			
支出コスト	千円	決) 26,876	決) 29,381				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H19:南口エスカレーター棟の先行整備、維持管理業務開始 H22:JRと基本協定、工事協定を締結 H23~H26:南北自由通路及び橋上駅舎化工事 H26.9~:南北自由通路開通に伴い、通路全体の維持管理業務開始	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 利用者の安心と安全が確保できるよう、条例に基づいた適正な維持管理に努めていく。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	南北自由通路は、バリアフリー化の一環であり、市の責務として、維持管理の必要がある。また、南北の賑わい創出に大きく寄与する。	評価責任者コメント	南北自由通路は、バリアフリーに対応した南北の賑わいの架橋としての要素を持つ通路である。このため、利用者の目線に立って維持管理を行っていく必要がある。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
これまで同様、自由通路利用者の安心・安全に配慮した適正管理及び、スペースの有効活用による財源の確保を行う。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	徳山駅南北自由通路の維持管理	徳山駅南北自由通路の維持管理	各種契約事務	23,519 可	0.80	0.00	
②							
③							
④							
⑤							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	681027	事務事業名	地方創生加速化交付金事業(地域エネルギー導入促進事業)			
担当部・課名	中心市街地整備部・中心市街地整備課	評価者(課長)	野村 正純	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	700503	分野	7産業・観光	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	5中心市街地の賑わいの創出			補助・単独の別	補助
	推進施策	(3)魅力ある中心市街地の再生・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	中心市街地	事業の目的(意図)	「周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、コンビナートと市街地が隣接しているまちの特性と、コンビナート自家発電施設の電力を有効活用を通じ、中心市街地へ「ひと」と「しごと」を呼び込む。
事業の内容(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンビナート電力利活用構想の策定</li> <li>●コンビナート電力送電設備整備(H28～H29)</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
中心市街地14箇所における歩行者等通行量		中心市街地14箇所における歩行者等通行量(H31目標28,800人/日)	人	27年度	28,000.0	28,000.0	28,000.0
				実績値	27,056.0	24,318.0	
				達成度(%)	96.6%	86.9%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	直接事業費	千円	26,978				
(予算額)	うち一財	千円	1,978				
直接事業費	千円			26,189		対29年度増減理由	対30年度増減理由
(決算額)	うち一財	千円		1,289			
正職員人件費	千円	0		6,594			
人工数	人			0.90			
支出コスト	千円	決) 0		決) 32,783			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H28.2: 本事業を推進するため、電力供給者である(株)トクヤマと利用者である本市とで周南市地域エネルギー利活用組合を設立 H28.2:(株)トクヤマとの連携に関する共同声明を公表	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 徳山駅周辺整備事業の進捗に留意しつつ、新庁舎の電気工事開始までに本工事が完了するよう、効率的に整備を進める。
	評価	A	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	賑わい交流施設や新庁舎にコンビナート電力の供給を受け、行政コストの削減、災害時における防災拠点の機能確保、中心市街地への民間施設誘致等を図る。	評価責任者コメント	コンビナートと市街地が隣接しているまちの特性を生かした新たな取り組みであり、安価で安定した電力を有効活用することにより、防災拠点の機能確保や民間施設を誘致するなど、中心市街地の活性化に資する事業である。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	コンビナート電力利活用構想の策定	まちの活性化を図るため、コンビナート電力利活用構想を策定する	コンビナート電力利活用構想の策定	0 可	0.10	0.00	
②	送電設備の整備	まちの活性化を図るため、送電設備の整備を行う	送電設備の整備	26,189 可	0.80	0.00	
③							
④							
⑤							

平成29年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	681018	事務事業名	コンビナート電力活用推進事業			
担当部・課名	中心市街地整備部・中心市街地整備課	評価者(課長)	野村 正純	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	700503	分野	7産業・観光	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	5中心市街地の賑わいの創出			補助・単独の別	補助
	推進施策	(3)魅力ある中心市街地の再生・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	中心市街地	事業の目的(意図)	「周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、コンビナートと市街地が隣接しているまちの特性と、コンビナート自家発電施設の電力を有効活用を通じ、中心市街地へ「ひと」と「しごと」を呼び込む。
事業の内容(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンビナートが生み出す電力を中心市街地で利活用することにより、中心市街地の活性化を図る</li> <li>●コンビナート電力送電設備整備(H28～H29)</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	27年度	28年度	29年度
					目標値	実績値	達成度(%)
中心市街地14箇所における歩行者等通行量		中心市街地14箇所における歩行者等通行量(H31目標28,800人/日)	人		28,000.0	28,000.0	28,000.0
					27,056.0	24,318.0	
					96.6%	86.9%	

事業費	項目	単位	27年度	28年度	29年度(予算)	30年度(予算)	31年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	—	300,000	340,097	8,096
うち一財		千円	—	15,000	7,716	1,660	1,300
(決算額)	直接事業費	千円	—	11,000		対29年度増減理由	対30年度増減理由
	うち一財	千円	—	1,067		29年度で管路埋設工事が完了するため	30年度で管路から施設への引込み工事を行い、31年度から維持管理費を計上
正職員人件費	千円	—	5,862				
	人工数	人	—	0.80	0.80		
	支出コスト	千円	—	決) 16,862			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H28.2: 本事業を推進するため、電力供給者である(株)トクヤマと利用者である本市とで周南市地域エネルギー利活用組合を設立 H28.2:(株)トクヤマとの連携に関する共同声明を公表		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 徳山駅周辺整備事業の進捗に留意しつつ、新庁舎の電気工事開始までに本工事が完了するよう、効率的に整備を進める。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	賑わい交流施設や新庁舎にコンビナート電力の供給を受け、行政コストの削減、災害時における防災拠点の機能確保、中心市街地への民間施設誘致等を図る。		評価責任者コメント	コンビナートと市街地が隣接しているまちの特性を生かした新たな取り組みであり、安価で安定した電力を有効活用することにより、防災拠点の機能確保や民間施設を誘致するなど、中心市街地の活性化に資する事業である。

【改善】 Action

平成30年度当初予算等での改善結果(平成30年度当初予算への反映など)	備考
賑わい交流施設や新庁舎への電力供給が開始されることにより、行政コストの削減が図られる。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	送電設備の整備	まちの活性化を図るため、送電設備の整備を行う	送電設備の整備	11,000 可	0.80	0.00	
②							
③							
④							
⑤							